



NEWS RELEASE

令和5年3月13日  
独立行政法人日本スポーツ振興センター  
北海道公立大学法人札幌医科大学

日本スポーツ振興センターと札幌医科大学  
包括連携協定を締結

このたび、独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC：JAPAN SPORT COUNCIL）と北海道公立大学法人札幌医科大学は、包括連携協定を締結しました。本日3月13日（月）に北海道の大倉山ジャンプ競技場において、JSC 理事長 芦立訓、札幌医科大学 理事長・学長 山下敏彦及び関係者出席のもと、調印式が行われました。

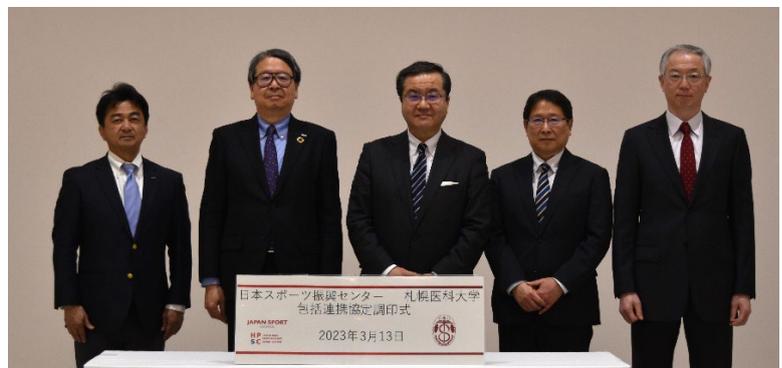
本協定は、JSCの主にハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）と札幌医科大学が包括的な連携のもと、相互の人的・知的資源の交流と活用を図り、相互に連携・協力することにより、北海道はもとより我が国スポーツの推進、スポーツ医・科学研究の推進、人材育成を行い、もって、我が国のスポーツにおける好循環に関わる先導的な役割を果たすことを目的とするものです。

具体的には、JSC/HPSCと札幌医科大学との情報共有や人事交流等により、相互の施設・設備も活用しながら、両組織の研究員・スタッフが連携し研究・支援を実施していくことなどを予定しています。

JSCは「スポーツ基本法」の理念に基づき、我が国のスポーツ推進の中心的な役割を果たす独立行政法人として、スポーツ界全体の連携・協働に資することが求められております。今後も大学等の関係機関等と一層の連携強化を図り、成果の社会還元やスポーツを通じた人材育成に取り組んでまいります。



左からJSC芦立理事長、札幌医大山下理事長・学長



左からJSC久木留理事、芦立理事長、札幌医大山下理事長・学長、片寄理事、渡邊スポーツ医学センター長

次ページあり

## ●日本スポーツ振興センター 理事長 芦立 訓 コメント

### 「北海道を冬季競技におけるスポーツ医・科学、情報の拠点に」

日本スポーツ振興センターのハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）ではこれまで、国立スポーツ科学センター（JISS）や味の素ナショナルトレーニングセンター（味の素NTC）において、スポーツ医・科学、情報等による研究、支援及びトレーニング拠点として日本のスポーツの発展に地道に取り組みを重ねてきました。今後もスポーツが社会にとって大きな役割を果たすことができるよう取り組んでいく所存です。

そのような中で、このたび、「スポーツ医学センター」を設置するなどスポーツ障害に関わる医療体制等を確立しているほか、スポーツ医学を推進する人的資源（スポーツドクター、理学療法士、アスレティックトレーナー、研究者）を有する札幌医科大学と連携協定を締結できたことは、大変意義深いと考えております。

本協定の締結を契機として、互いに持つ資源や強みを生かし合うことで、北海道を冬季競技におけるスポーツ医・科学、情報の拠点として、スポーツ医・科学、情報等による研究・支援、人材育成を更に推進するとともに、ひいては日本のスポーツのさらなる振興に寄与し貢献できるよう努めてまいります。

## ●札幌医科大学 理事長・学長 山下 敏彦 コメント

### 「連携強化で先端的スポーツ医科学研究の一層の推進と地域への知見の還元を」

これまで本学では、アスリートのコンディショニングを医学的視点で考究するスポーツ理学療法学分野の大学院課程を1998年に我が国で最初に設置し、人材の育成に取り組むとともに、2011年には附属病院にスポーツ医学センターを設立し、外傷障害のみならず呼吸循環器の病態、そして女性アスリートへの婦人科的病態への対応など、附属病院全診療科を後方支援にもワンストップで対応できる体制を整えてきたところです。

本日の連携協定の締結により、両者の協働関係はより強固なものとなり、双方の持つ様々なノウハウを活用できるようになったことは、北海道はもとより我が国のスポーツ医科学発展に大いに寄与するものと考えております。

今後は、先端的スポーツ医科学の研究の推進や、研究成果の競技現場への実装化に向けてより一層の取組を行っていくとともに、そこで得た様々な知見を北海道に還元し、日本のみならず北海道のスポーツの発展にも貢献していけるよう努めてまいります。